

(別紙1)

平成21年度特別支援教育研究研修員の受入研究系及び研究課題一覧

平成20年11月 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

各県等における特別支援教育を推進していくリーダーとしての資質の向上や各県等の教育政策や教育研究の推進に寄与する専門性の向上を図ることを目的に、以下の研究系及び研究課題を対象として、平成21年度特別支援教育研究研修員(1年間)を募集いたします。

研究研修員は、研究メンバーとして、研究職員と協働して研究に取り組みますので、協調性に富み、個々の研究課題について十分な関心・意欲・態度を有している者の推薦をお願いします。

研究系	研究課題名及び研究の概要等
総合的・横断的研究系	<p><b>特別支援教育における教育課程の在り方に関する研究 - 複数の障害種への対応及び幼・小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫 -</b> 重点推進研究(専門研究A) 研究期間:平成20~21年度</p> <p>研究代表者: 千田耕基(教育支援部長) 所内研究分担者: 木村宣孝、長沼俊夫、原田公人、井上昌士、滝川国芳、菊地一文、大崎博史 研究班: 推進班(研究班長 大内進(企画部上席総括研究員))</p> <p>&lt;概要&gt; 学校教育法の改正に伴い、1つの特別支援学校が異なった障害やニーズのある児童生徒に対応することが可能となった。これに伴い都道府県レベルでも学校レベルでも様々な取組や試みが展開されている。よりいっそう児童生徒個々のニーズに対応したきめ細やかな指導を充実していくためには、個別の指導計画や個別の支援計画の策定はもとより、学校の有する資源を有効に活用し時系列的にも組織として展望を持った対応が不可欠である。こうした観点から、本研究では18年度までに実施した「特別支援教育における教育課程の編成・実施の推進に向けた実際研究」をさらに発展させて、特別支援学校における複数の障害種に対応した教育課程編成や、小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫に焦点をあてた実際研究を進める。</p>
	<p><b>障害のある子どもへの一貫した支援システムに関する研究 - 後期中等教育における発達障害への支援を中心として -</b> 重点推進研究(専門研究A) 研究期間:平成20~21年度</p> <p>研究代表者: 渥美義賢(発達障害教育情報センター長) 所内研究分担者: 後上鐵夫、笹森洋樹、澤田真弓、藤井茂樹、棟方哲弥、大城政之、久保山茂樹、植木田潤、涌井恵、梅田真理 研究班: 推進班(研究班長 大内進(企画部上席総括研究員))</p> <p>&lt;概要&gt; 障害のある子どもの支援は、できるだけ早期から開始されて社会参加に至るまで、個々の特性に合った一貫性と継続性を持つものであることが必要である。本研究では、それを可能にするために必要な国及び地方公共団体が構築すべきシステムについての研究を発達障害を中心に行う。このうち、早期の支援システムについては平成18~19年度のプロジェクト研究でグランドデザインの提案を行ったところであり、その検証を含めつつ今回は主に後期中等教育段階に焦点をあてる。後期中等教育における発達障害のある生徒の現状等について実態把握を行った上で今後の課題を整理し、教育的支援を中心にしたつつ就労・福祉との関係を踏まえて今後の一貫した支援システムの在り方を考察する予定である。</p>
	<p><b>特別支援学校における学校評価に関する実際研究【仮題】</b> <span style="float:right">新規(予定)</span></p> <p>研究班: 推進班(研究班長 大内進(企画部上席総括研究員))</p> <p>&lt;概要&gt; 本研究では、平成20年度においてスタートアップ研究として「特別支援学校の特性を踏まえた学校評価の在り方に関する基礎的研究」を実施している。この研究では、文部科学省が平成20年1月に改訂した「学校評価ガイドライン」の記述を踏まえた、都道府県での特別支援学校における学校評価の実施状況や実施内容等の実態について調査を実施した。本研究では、この研究をさらに発展させて、特別支援学校における学校評価の進め方、具体的な評価項目、指標等の設定の在り方等について検討し、特別支援学校の運営の改善と発展に寄与する学校評価の在り方を提案する。</p>
	<p><b>特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する実際研究</b> <span style="float:right">専門研究A 研究期間:平成20~21年度</span></p> <p>研究代表者: 徳永亜希雄(教育支援部主任研究員) 所内研究分担者: 松村勲由、渡邊正裕 研究班: 在り方班(研究班長 藤本裕人(企画部総括研究員))</p> <p>&lt;概要&gt; ICFの視点の重要性を含めた中央教育審議会答申を受け、特別支援学校の学習指導要領や解説書、指導の手引き等の具体的な検討がこれから本格的に行われること、より実際的なICF-CY活用の方法論とそれらを支える理解啓発や研修の在り方等の検討が課題として指摘されたこと等を踏まえ、本研究では、特別支援学校の学習指導要領や解説書、指導の手引き等の検討作業に提供する資料の作成、ICF-CYを活用するための具体的な方法論を明らかにし、併せてそのための電子化ツールの開発などを行う。</p>
	<p><b>障害のある子どもへの進路指導・職業教育の充実に関する研究</b> <span style="float:right">専門研究A 研究期間:平成20~21年度</span></p> <p>研究代表者: 原田公人(教育支援部総括研究員) 所内研究分担者: 千田耕基、後上鐵夫、小林倫代、木村宣孝、小澤至賢、太田容次、渡辺哲也、柳澤亜希子、植木田潤 研究班: 移行支援班(研究班長 原田公人)</p> <p>&lt;概要&gt; 障害のある子どもの早期からの進路指導、職業教育の充実を図るためには、教育、福祉、労働の多面的な実態調査が必要である。本研究では、特に高等部段階での障害者の職業教育・就労支援が喫緊の課題であることを鑑み、実態調査等により各障害種における進路指導及び職業教育、障害者の就労の現状と課題を整理し、障害のある子どもの就労の拡大と充実に資するための支援計画ツールを作成する。</p>

(3名程度)

	<p><b>重複した障害のある子どもの教育に関する実態把握と教育支援に関する研究【仮題】</b> <span style="float:right">新規（予定）</span></p> <p>研究班： 重複班（研究班長 笹本健（教育支援部上席総括研究員））  &lt;概要&gt; 特別支援学校においては、近年、重複障害のある幼児児童生徒の占める割合が増加している。例えば、特別支援学校（肢体不自由）には70%強、特別支援学校（視覚障害）には40%強の重複障害のある児童生徒が在籍している。  特別支援教育が制度化され、特別支援学校は、従前以上に各障害教育専門分野の知見を生かして障害の重複した児童生徒の個々のニーズに即した教育内容・方法を柔軟に展開していくことが求められている。  そこで、本研究では障害の重複した児童生徒に関する各障害教育分野の知見を生かした連携に基づく教育内容・方法の工夫やその課題について調査する。また、特別支援学校における児童生徒の個々のニーズに即した教育実践（教育内容・方法）の工夫について明らかにするものである。</p>
	<p><b>新学習指導要領の実施に向けたアシスティブ・テクノロジーの活用と評価に関する研究【仮題】</b> <span style="float:right">新規（予定）</span></p> <p>研究班： 情報・支援機器班（研究班長 棟方哲弥（企画部総括研究員））  &lt;概要&gt; 本研究では、新学習指導要領の実施に向けて新たに必要となる支援機器や教材・教具などのアシスティブ・テクノロジーについて、その選定手続きを含めた活用方法を明らかにし、これらを利用した教育の効果について明らかにする。  本研究期間の2ヶ年は、児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応した新たなアシスティブ・テクノロジーの利活用について検討する。研究実施にあたっては、情報・支援機器班を主体として取り組むが、障害種別の研究班を中心に行われる専門研究と密接な協力のもとに行うこととする。</p>
感覚障害・言語障害研究系	<p><b>特別支援学校及び通常の学校に在籍する視覚障害のある児童生徒の教科指導の質の向上に関する研究</b> <span style="float:right">専門研究B 研究期間：平成20～21年度</span></p> <p>研究代表者： 田中良広（企画部総括研究員）  所内研究分担者： 千田耕基、大内進、澤田真弓、金子健、渡辺哲也  研究班： 視覚班（研究班長 田中良広）  &lt;概要&gt; 視覚に障害のある児童生徒は、特別支援学校（視覚障害）だけでなく、小・中学校など様々な学校に在籍している。本研究では、視覚障害のある児童生徒への教科指導の質の向上を図ることを目的として視覚障害に配慮した指導内容・方法や教材教具の改善・開発に関する具体的な知見を整理し提供します。併せて新学習指導要領を踏まえて、教科等における視覚障害に対応した配慮事項について検討する。その成果を視覚障害児童生徒の担当者向けのガイドブックとしてまとめる。</p>
	<p><b>聾学校における授業とその評価に関する研究 - 手話活用を含めた指導法の改善と言語力・学力の向上を目指して -</b> <span style="float:right">専門研究B 研究期間：平成20～21年度</span></p> <p>研究代表者： 小田侯朗（教育研修情報部総括研究員）  所内研究分担者： 原田公人、藤本裕人、横尾俊  研究班： 聴覚班（研究班長 小田侯朗）  &lt;概要&gt; 特別支援教育進展の中、聾教育の専門性の維持と向上が喫緊の課題となっている。また近年聴覚障害幼児児童生徒の言語力や学力の向上に対する関心が高くなっている。これまでの研究から得られた知見からも、幼児児童生徒やコミュニケーション手段の多様性に対応する指導法や評価法の検討がさらに必要であることが示唆された。本研究では、これらの背景を踏まえ、聾学校における授業を核として、幼児児童生徒の実態把握、指導法、授業展開、授業評価等の検討を行い、これらを学力・言語力の向上に向けて有機的に統合するための基礎的な課題とそれへの対応方法を明らかにする。</p>
	<p><b>言語障害教育における指導の内容・方法・評価に関する研究 - 言語障害教育実践ガイドブックの作成に向けて -</b> <span style="float:right">専門研究B 研究期間：平成20～21年度</span></p> <p>研究代表者： 久保山茂樹（企画部主任研究員）  所内研究分担者： 後上鐵夫、小林倫代、松村勳由、牧野泰美  研究班： 言語班（研究班長 松村勳由（教育支援部総括研究員））  &lt;概要&gt; 特別支援教育が推進されていく中、言語障害教育では、指導対象児の多様化に伴う専門性の在り方、担当教員の資質の向上などが課題となっている。本研究は、継続的な事例研究や教育現場における優れた指導実践の収集等を通して、言語障害教育の専門性を再確認し、担当教員に必要な指導の内容・方法・評価についての知見を整理することを目的とする。また、本研究の成果を踏まえ、言語障害教育担当者を対象とした指導実践に資するガイドブックを作成する。</p>
運動障害・健康障害研究系	<p><b>肢体不自由のある子どもの教育における教員の専門性向上に関する研究 - 特別支援学校（肢体不自由）の専門性向上に向けたモデルの提案 -</b> <span style="float:right">専門研究B 研究期間：平成20～21年度</span></p> <p>研究代表者： 長沼俊夫（教育支援部総括研究員）  所内研究分担者： 笹本健、金森克浩、大崎博史、齊藤由美子、徳永亜希雄  研究班： 肢体不自由班（研究班長 長沼俊夫）  &lt;概要&gt; 一人一人のニーズに応じて質の高い教育を行うためには、障害種別の専門性の継承・発展が重要な課題である。現在の特別支援学校（肢体不自由）には、在籍する幼児児童生徒の障害の重度・重複化に適切に対応するとともに、地域の小中学校等で学ぶ肢体不自由のある児童生徒等への支援にも努めるなど地域の肢体不自由教育における役割がますます求められている。この点を踏まえ、本研究では特別支援教育を推進していく上で肢体不自由教育担当者の専門性とは何か、特に特別支援学校（肢体不自由）における幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応すべき教育の専門性とは何か、その内容を明確にすると同時に、教員の専門性向上に向けたモデルを提案する。</p>

<p>(2名程度)</p>	<p><b>小・中学校に在籍する病気による長期欠席者への特別支援教育の在り方に関する研究</b> 専門研究B 研究期間：平成20～21年度</p> <p>研究代表者：西牧謙吾（教育支援部上席総括研究員）      所内研究分担者：植木田潤、太田容次、滝川国芳      研究班：病弱班（研究班長 西牧謙吾）</p> <p>&lt;概要&gt; 全国の小・中学校における病気による長期欠席者は4万人以上にのぼっている。しかしながら病弱教育は、従来特殊教育に位置づけられてきたため、これまで通常教育へのアプローチが希薄だったといえる。本研究では、病気の子どもにおける特別支援教育を推進するために、こうした通常の学校における病気による長期欠席者への支援を視野に入れて、病気の子どもが特別支援学校等から前籍校への移行をスムーズに行うために、特別支援学校のセンターの機能を活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を有効に利用できるように特別支援学校の教育機能強化に関する研究を行う。</p>
<p>知的障害          害・発達障          害研究系</p>	<p><b>自閉症スペクトラムの児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際研究 - 小・中学校における特別支援学級を中心に -</b>          重点推進研究（専門研究B） 研究期間：平成20～21年度</p> <p>研究代表者：廣瀬由美子（教育支援部総括研究員）      所内研究分担者：瀧美義賢、井上昌士、小澤至賢、菊地一文、木村宣孝、柳澤亜希子      研究班：自閉症班（研究班長 廣瀬由美子）</p> <p>&lt;概要&gt; 自閉症の児童生徒には、その状態に応じた指導の場が用意されている。しかし、各学校や学級、教室における授業環境の設定の在り方も異なることから、それぞれの指導場面における指導内容や指導方法、環境設定の在り方について、共通する点と特異な点を分析するとともに、さらには総合的に検討していく必要がある。本研究では、特別支援学校を研究対象にした近年のプロジェクト研究の知見が、特別支援学級に活かせるのか検討するとともに、教育課程の編成を含めた特別支援学級における自閉症教育の基本的な在り方について検討する。そのうえで、特別支援学級における自閉症の児童生徒の教育課程編成の在り方や基本的な指導内容と指導方法、小・中学校における自閉症教育の在り方について提言する。</p> <p><b>小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究</b>          重点推進研究（専門研究B） 研究期間：平成20～21年度</p> <p>研究代表者：笹森洋樹（発達障害教育情報センター総括研究員）      所内研究分担者：瀧美義賢、伊藤由美、大城政之、海津亜希子、久保山茂樹、小林倫代、      玉木宗久、廣瀬由美子、藤井茂樹、柳澤亜希子、涌井恵、梅田真理      研究班：発達・情緒班（研究班長 瀧美義賢（発達障害教育情報センター長））</p> <p>&lt;概要&gt; 発達障害のある子どもは、認知特性や注意の問題による困難や行動面での困難から教科学習において遅れのみられることが少なくなく、このことが自己評価を低下させて二次的障害の原因の一つともなっている。この現状を踏まえて、本研究では小・中学校の通常の学級における教科教育等の支援の在り方を中心に研究を行う。そこでは、学級集団の在り方も含めて捉えることが重要であり、学級経営、授業改善の視点から、個々の子どもの障害特性を的確に把握し、それに応じた指導内容や指導方法を、教材・教具や支援機器等の工夫を含めて検討する予定である。また、発達障害のある子どもは、小学校での教科学習に対するレディネスを就学前に確立しておくことが重要であることから、幼稚園・保育所における指導法についての検討も併せて行っていく予定である。</p>
<p>(3名程度)</p>	<p><b>知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究 - 「キャリア発達段階・内容表（試案）」に基づく実践モデルの構築を目指して -</b>          専門研究B 研究期間：平成20～21年度</p> <p>研究代表者：木村宣孝（教育支援部総括研究員）      所内研究分担者：井上昌士、大崎博史、小澤至賢、菊地一文、涌井恵      研究班：知的班（研究班長 木村宣孝）</p> <p>&lt;概要&gt; 平成18～19年度の研究において我が国におけるキャリア教育概念を踏まえた知的障害者のキャリア教育の方向性について検討してきた。この研究において知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」を作成した。本研究の成果に基づく次の研究課題として、この試案において整理した知的障害者のキャリア発達段階の押さえ及びこれに基づく重視すべき教育内容の観点について、障害の多様化を踏まえた実践的な検証が必要とされています。本研究では、小・中・高等部を設置する特別支援学校（知的障害）を中心に、「ライフキャリア」等の視点から障害の比較的軽度の児童生徒も含めたキャリア教育の在り方を整理するとともに、実践にもとづく「キャリア発達段階・内容表（試案）」の検証を行い、実践モデルの提案を含めた「知的障害教育におけるキャリア教育充実のためのガイドブック」を作成することを目的とする。</p>

注) 本一覧は、平成21年度特別支援教育研究研修員の受入に当たって示したものです。

本研究所は、我が国の特別支援教育のナショナルセンターとして、この他にも、政策的課題や教育現場のニーズ等を踏まえた実際的かつ総合的な研究を実施いたします。